

「コンサ百年の森づくり」2013年度事業報告

《事業経過》

コンサドーレ札幌は未来の子供たちに豊かな緑を残すため「コンサ百年の森づくり」を2008年6月にスタートしました。2004年9月の台風18号によって甚大な風倒被害を受けた支笏湖周辺国有林のうち、11.63ヘクタールを対象に植林活動を行い、失われた森の復興を目指しております。2008年度から2010年度までに7,700本の植樹を行いました。

また、2009年度から小学生を対象とした「森の教室」を開催しています。カミネッコン作りや森の仕組みについての授業を行い、森や自然、環境についての理解を深める活動を展開しています。

＜カミネッコンとは＞

北海道大学名誉教授で、森林空間研究所を主宰する東三郎さんが1997年に考案した、再生紙や古紙を素材にした植栽用の紙ポットです。

再生ダンボールを使った組み立て式ポットで、これに培養土と苗木を入れて少し育て、森をつくりたい場所に置くだけです。地面を掘ったり、面倒な世話などはしなくてよいものです。ポットはやがて風化してなくなり、数年後には小さな森ができあがる仕組みです。

《事業内容》

○実施主体 コンサ百年の森づくり実行委員会（札幌市西区宮の沢2条3丁目4-1）

○活動の構想

コンサドーレ札幌の選手、サポーター、スポンサー、株主、小学生等による植樹など、森づくり活動の体験や自然観察会などの学習「森の教室」を通じて地球環境保全意識を高める。

○植林対象地 石狩森林管理署 千歳森林事務所 5460林班
（モーラップスポーツ林東側、水明林道付近一帯。支笏湖ビジターセンターから約2.5km）

○植林予定面積 11.63ヘクタール

○活動協力団体 NPO 法人 北海道森林ボランティア協会

＜森の教室について＞

小学生を対象とした森の教室は、コンサ百年の森で行います。

石狩森林管理署の方を講師にお迎えして、コンサ百年の森の状況と森の機能や環境について学習してもらいます。カミネッコンの苗木による補植説明後、カミネッコンに思い思いのメッセージを書き入れてもらい、植樹会を実施します。

○講習内容 約1時間

- ・森の環境について 講師：石狩森林管理署、北海道森林ボランティア協会
- ・カミネッコン作成 参加児童全員
- ・コンサドーレ札幌選手との交流
（森の教室は約1時間、その後選手と写真撮影、バス移動中に交流）

≪2013年度「コンサ百年の森づくり」≫

8月 植樹部分の下草刈り（森林ボランティア協会スタッフのみなさん）

9月27日 「森の教室」の開催（千歳市立桜木小学の児童）

＜2013年度「森の教室」＞

○日時 2013年9月27日（金）

○植林対象地 石狩森林管理署 千歳森林事務所 5460林班

○参加児童 千歳市立桜木小学校4年生 約60名

○実施内容

現地に石狩森林管理署の方を講師にお迎えして、千歳市立桜木小学校4年生約60名の児童を対象に開催いたしました。

初めに森の仕組みについてのお話を聞き、森林や自然、環境について学びました。

その後、昨年植えた苗木の生長ぶりを観察。カミネッコンの苗木による補植を実施しました。

参加した児童達は、シカの植害などによって枯れた苗木を見て「今度は食べられないで大きく育てほしい」、「大きくなった木を見に来てみたい」など、森の環境と自ら植えた木の生長を願っていました。

また、コンサドーレ札幌の2名の選手（神田選手・松本選手）とマスコットのドーレくんと交流を楽しみました。

今回は2年続けて参加の児童が多く、森に対する意識や取り組み方がより深まったと感じています。これからも「森の教室」を通して、北海道内の子供達へ森林や自然環境についての理解を深める取り組みを実施していきます。

≪『コンサ百年の森づくり』が「生物多様性の保全のために」できること≫

『コンサ百年の森』は、支笏洞爺国立公園内の支笏湖畔近隣に位置しております。この地区は、2004年9月の台風18号によって甚大な風倒被害で多くの倒木が発生しました。この地区における植樹活動は、各々の生態系の中で相互に影響しあっている生物多様性の保全回復に必要なかつ、繋がるものと確信します。継続的な植樹活動が、地球温暖化を防ぎ、生物多様性の保全になると考えております。

『コンサ百年の森づくり』の活動は、北海道唯一のJリーグのクラブチームであるコンサドーレ札幌を応援するサポーターをはじめとして、スポンサー、株主、一般市民、小学生たちに向け、コンサドーレ札幌のホームページ、試合プログラム、月刊誌などを通して継続的な植樹活動及び森の育成の必要性につき、広く告知しております。

このように、広く一般市民及び市民団体などの参加・協力に基づく活動の継続的展開は、それらの多くの人々が、湖畔の森で植樹活動に参加し、自然に触れ合うこと、森の教室として自然観察を行うことで、森の機能を学ぶということに通じ、そのことが生物多様性を憩いの場、教育の場として利用できるという意味で、少なからず恩恵を受けていると考えます。

コンサドーレ札幌のマスコットキャラクター「ドーレくん」は、絶滅危惧種のシマフクロウをモチーフとしております。『コンサ百年の森づくり』が、その名の通り、継続的に森の育成活動を続け、いずれはシマフクロウも生息できるような森の育成を願って、ひいては、それが生物多様性に貢献できることを願っております。



平成25年度 収支計算書

(単位：円)

平成25年4月1日から平成26年3月31日まで

コンサ百年の森づくり基金

科 目	金 額	備 考
I 経常増減の部		
1. 経常収益		
(1) 寄付金収入	100,000	
(2) 受取利息	44	
経常収益計	100,044	
2. 経常費用		
(1) 事業費		
① 植樹活動費	171,180	技術協力費、森の教室
(2) 管理費		
① 支払手数料	840	
② 租税公課	8	
経常費用計	172,028	
当期経常増減額	△ 71,984	
II 経常外増減の部		
1. 経常外収益	0	
経常外収益計	0	
2. 経常外費用	0	
経常外費用計	0	
当期経常外増減額	0	
当期正味財産増減額	△ 71,984	
正味財産期首残高	275,012	
正味財産期末残高	203,028	

平成25年度 貸借対照表

(単位：円)

平成26年3月31日現在

コンサ百年の森づくり基金

科 目	金 額	備 考
I 資産の部		
1. 流動資産		
(1) 現金	0	
(2) 預金	203,028	
流動資産合計	203,028	
資産合計	203,028	
II 負債の部		
1. 流動負債	0	
流動負債合計	0	
負債合計	0	
III 正味財産の部		
1. 一般正味財産	203,028	
正味財産合計	203,028	
負債及び正味財産合計	203,028	